

パリ協定長期成長戦略懇談会

2018年9月4日

高村 ゆかり(名古屋大学)

E-mail: takamura.yukari@g.mbox.nagoya-u.ac.jp

- パリ協定がめざす長期目標(脱炭素化)とイノベーション
- イノベーションをいかに生み出すか (IRENA 2017; WIPO 2018ほか)
 - R & Dのみならず技術のライフサイクル(イノベーション・プロセス)全体を見通した施策の必要性



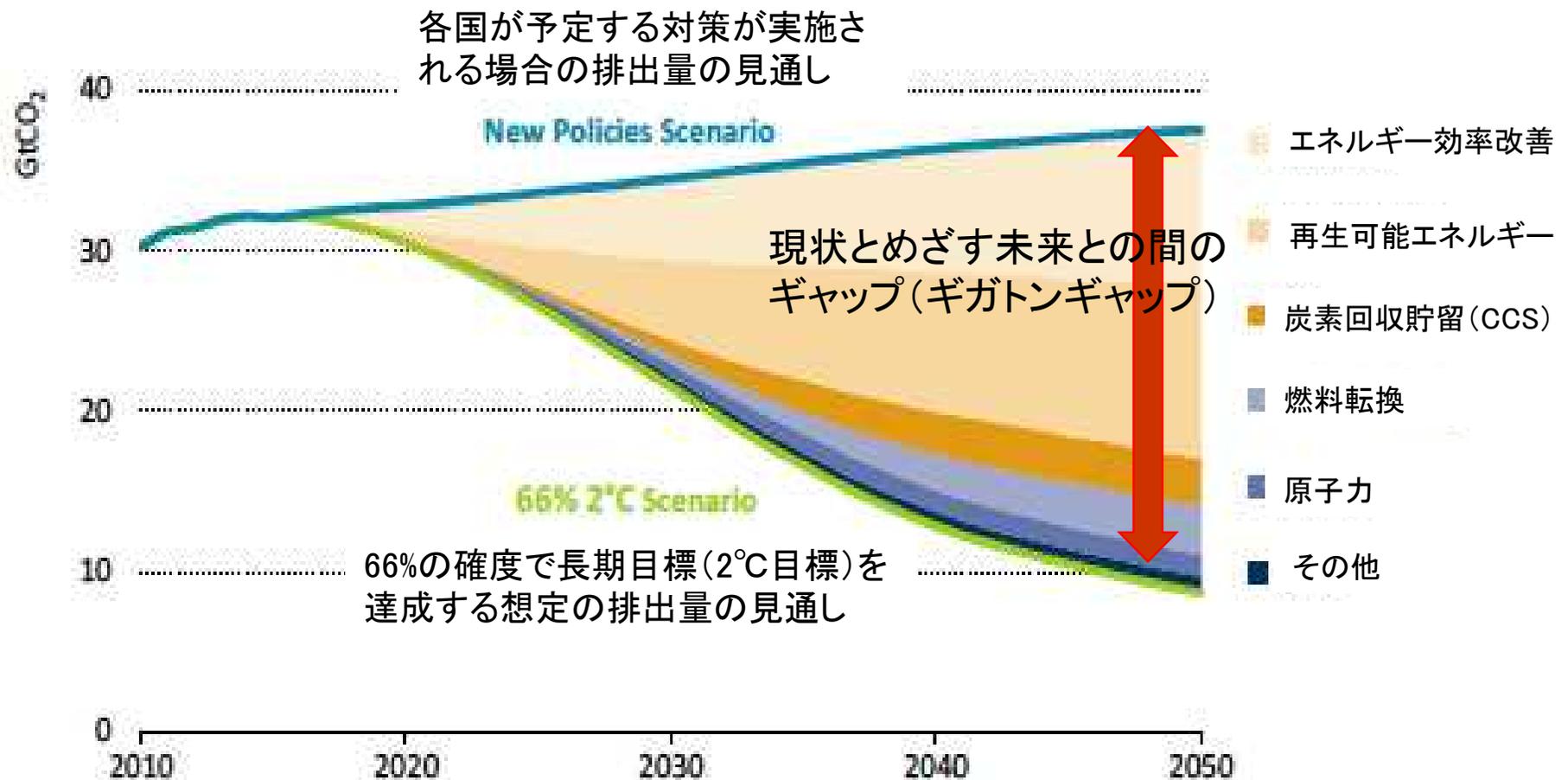
- R & Dの重要性はいうまでもない
 - 今ある技術の普及の加速(コスト低減を含む)と新たな技術的ソリューション
- イノベーションを市場化・商業化する戦略・施策: 市場・インフラ・制度のイノベーションの重要性
 - イノベーションの展開を可能とするインフラ、新たな基準やQC制度、規制措置の設定など、民間の投資環境を支える制度 (cf. 2050年自動車新時代戦略 (2018))
 - イノベーションが必要とされる需要側への施策(市場創出の施策)
- 日本のクリーンテク・イノベーション力
- 脱炭素化の重点領域についてもできるかぎり具体的に目標・ビジョンとその課題を明確化: これがイノベーションを促す

パリ協定の長期目標から見えるもの

長期目標の明確化でどこにイノベーションが必要かが見えてくる

2014年-2050年でエネルギー効率を年平均2.5%改善(過去15年の約3.5倍)

2050年までに電気のほぼ95%が低炭素電気に



日本のクリーンテック・イノベーション力

世界12位、アジアでは韓国に次ぐ2位
環境関連特許は実数でもGDP比でも世界一
イノベーションは起きているが、その商業化に課題

